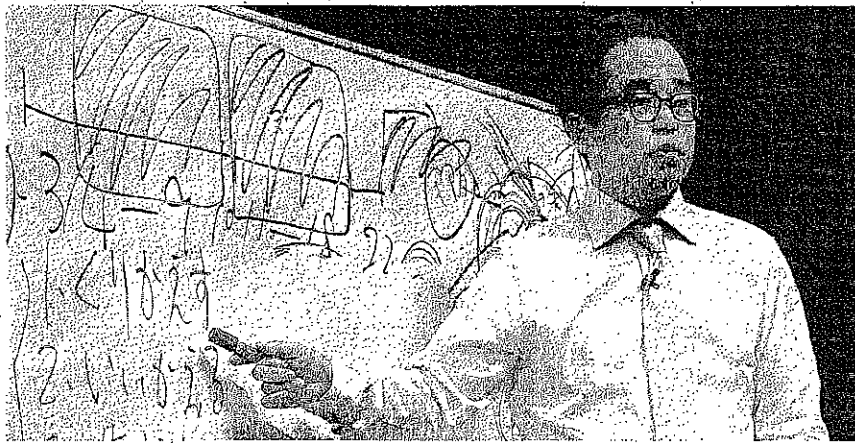


いろいろ応援団

「子育て切り替えが大切」

花まる学習会代表・高濱正伸さん 講演をお届け

「母親だからできること」子育ての落とし穴」と題して3月29日に鳥取市民会館で催された子育て講演会。講師の花まる学習会代表・高濱正伸さん(56)は「ニコニコママ」であるための秘訣や心の免疫の大切さを語り、4〜9歳ごろの幼児期を「赤い箱」の時期、小学5年ごろからの思春期を「青い箱」の時期と2色に分け、育て方を切り替えることを勧めました。講演の一部をお届けします。



赤い箱と青い箱では別の生き物。イモムシとチョウミみたいなものです。

赤い箱の時、幼児が別の生き物であることに、おち切れるお母さんがいっぱいいます。「何回言えはわかるの」と。何回言ったってわからないのは、本質。乳児・幼児は、「今」にもものすごく集中している。人生が違うんです。

ほれるような人

男の子を自立から遠ざけちゃう落とし穴があります。危ないこと、下品なことだ、「ちめて」の一辺倒

赤い箱(幼児期)と青い箱(思春期)を区別し、子育ての切り替えを説明する高濱さん(鳥取市橋本町)

で、お母さんがポキンとツノを折っちゃう。今、お母さん自身からわき出るいい子ちゃん像じゃなくて、将来、お母さんがほれるような人に育ててほしい。

トラブルは財産

免疫体験が、大きなテーマ。トラブルにあうのは財産なんです。サマースクールで、このくらいのけんかはOKと思いつながら見逃しています。小さい時に大笑いした経験があり、仲の修復の仕方を覚えたら、それができる大人になる。

「大人」宣言する

青い箱の時期が来たら、ソフトチェンジしないといけない。僕は小学5年生の4月くらいをめどにしています。ちよっと反発がひどくなってきたら、体が変わってきたら、わかりやすいですね。「大人として扱う」と宣言するとい。同性の親が大事です。お母さんが娘に、30年先行している私

里山保育はふるさとへの記憶

3月13日、この冬最後の雪降

た。森の雪原は格好の遊び場です。S君とA君は雪たまるま作りに挑戦。KちゃんとMちゃんとひら

1993年に学習教室を始めました。「メシを食える人間に育てたい」という思いはずっと変わらない。社会環境が変化して、子どもがスマホを持つようになり、「いじめの質も変わると思うが、リーダーシップをとれる子は生き残れる。子育ての大きいところは変わらないかなと思う」。

4月から2年生になる高校生の長男は重度の脳性まひ。「すごく幸せなんです。夫婦で、この子のために結束し、そこで迷いはない。心の底から、存在が素晴らしいと思える」



思考力と体験 塾教育の軸に

終了後、高濱さんにインタビューしました。

高濱さんは熊本県人吉市出身。地元の球磨川で遊んだ原体験が今につながっているという。「けんかあり、だけどまた仲良くなり、子どもらしいわんぱく時代を過ごせた」東大に3浪で入り、20代は「悩める青年でした」と振り返る。子どもの教育にかかわることを決め、ひきこもりの増加にどう対処すればいいかを考えた時、「考える力をつける塾、体験が豊富な子を育てる塾」をつくりたいと思ったという。

分のお母さん、仕事、アイドルもいいですよ。ちゃんと子育てもがんばらうという「ちゃんと」が落とし穴。

毎日我が子が心配でたまらないとしたら、それだけで満点のお母さんですよ、と言いたい。寒くないか、ひもじくないか。「お母さんのイマジンセッション」が、母親だからできることなんです。

た。森の雪原は格好の遊び場です。S君とA君は雪たまるま作りに挑戦。KちゃんとMちゃんとひら